

議事録（概要）

○日 時：令和3年（2021年）6月30日（水）15：30～16：40

○場 所：北海道檜山振興局 301会議室

○出席者：22名（別添出席者名簿のとおり）

【内容】

1 進行 北海道檜山振興局保健環境部保健行政室企画総務課長

2 開会（疾病予防対策専門部会運営要領）

当部会は、平成20年に運営要領が定められ、主に、がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病及び精神疾患の5疾病の予防に関する事、医療連携体制に関する事、歯科保健医療対策に関する事を協議する場となっており、直近では、平成30年度に対面開催、昨年度は書面で開催している。平成30年度は、医療計画の地域版、「北海道医療計画南檜山地域推進方針」及び北海道健康増進計画すこやか北海道21の地域版、「南檜山圏域健康づくり事業行動計画」の改定年度であったことから、両計画の素案について協議を行った。昨年度は、書面により、南檜山圏域健康づくり事業行動計画に係る調査を実施、本日は初めにその調査結果の報告をさせていただく。

また、これまで南檜山圏域における重点的な目標を定めていなかったが、このコロナ禍において、今後ますます健康づくり、疾病予防が重要視され、より一層、圏域が一体となって着実に取組を推進していく必要があることから、今年度から、当部会における目的・課題・目標を整理し、各町・医療機関・関係団体・保健所等が相互に連携体制強化を図ることで、生活習慣病予防及び重症化予防を進めていきたいと考えており、当部会においては、今後その進捗管理を行って参りたい。本日の議事の2つめで、方針案をお示しするので、皆さまからご意見をいただきたい。

3 部会長団体の選出

今年度より、委員団体の中から、部会長団体として、江差町を選出させていただきたいと考えている。委員団体の皆さまからご承認いただきたい。（特に意見がなかったため、今年度より、部会長団体として江差町を選出することとする。）

なお、本日については、業務の都合で江差町が欠席となっているため、代理で事務局が議事進行を行っていくこととする。

4 議事

(1) 報告事項(資料1、別紙1)

[企画総務課 専門員]

- ・資料1に基づき、令和2年度「南檜山健康づくり事業行動計画に係る調査」に結果について説明を行った。
- ・結果概要(スライド16)

令和2年度の重点取組実績、令和3年度の重点取組予定を通し、各町の取り組み状況については、特に「がん」「糖尿病」「循環器疾患」領域について重点的な取組を実施している町が多く、その理由や課題として、がん検診・特定健診受診率の低迷や、高血圧者の割合の増加などがみられた。また、今後連携していきたい団体として、がん健診・特定健診における連携、また重症化予防の観点から、「医療機関」と回答した町が多く、その他、一体的な連携の必要性があることから、「保健所」と回答した町が複数みられた。

また、医療機関(診療所等含む)では、「循環器疾患」「糖尿病」について重点的に取り組んでいる他、管内の急速な高齢化に伴い「高齢者の健康」、また道条例の制定や、循環器疾患予防として「喫煙」をあげている医療機関もみられた。連携が必要と考える団体としては、更なる地域連携の強化、特定健診受診率向上のため、「町」と回答した医療機関が複数みられた。

その他関係団体では、取り組み領域は多岐に渡ったが、道条例の制定や禁煙支援に伴う「喫煙」、またメンタルヘルス対策として「心の健康」と回答した団体が複数みられた。今後の連携の必要性としては、健康診断の推進や情報共有の観点から、「医療機関」との回答が複数みられた。

その一方で、回答数が最も少なかった領域が、「次世代の健康」の領域という結果となった。

- ・全体を通して

疾病予防に関しては、特に「がん」「循環器疾患」「糖尿病」について、多くの団体で重点課題として取り上げ、それぞれ取り組みを推進しているが、その取組をより一層効果的に推進していくためには、まだまだ他機関との連携体制の整備が必要という部分が見えてきた。

また、ターゲット層としては、今後、将来を担っていく子どもたち、「次世代の健康」の部分については、やはり高齢者対策と比較すると、重点として取り上げている団体は少ない結果となったが、今後、さらに少子高齢化が急速に進む中では、高齢者の健康づくり対策と並行して、地域が一体となり、若いうちからの生活習慣の改善の意識を高めることで、その結果、将来、健康課題の改善が期待できるのではないかと感じている。今回の調査結果も踏まえ、今後の方針案について、次の協議事項で示したいと考えている。

(2) 協議事項(資料2)

[企画総務課 専門員]

- 資料2に基づき、南檜山圏域における重点的な取組について～当部会の目的・課題・目標～の説明を行った。
- スライド1～2

今回は、南檜山圏域特有の健康課題とターゲット層を絞り込み、まずは今後3年間の重点目標を定めることで、健康課題改善に向けた取り組みを着実に進めていければと考えており、その進捗管理の部分を当部会で行って行きたいと考えている。

全体テーマを「10年後、20年後を見据えた健康づくり」とし、特に「若い世代」「働く世代」をターゲットにしていきたいというところで、将来、子どもたち、また働く世代の方たちが高齢になった時を見据えて、取り組みを推進していきたいと考えている。

- スライド3～4

南檜山圏域は、特定健診の結果によると、特に糖尿病リスク因子となるHbA1cの有所見率と収縮期血圧の有所見率が高い傾向。また、腹囲・BMIについても高い傾向がみられる。

連携体制については、全体テーマとして掲げている「10年後20年後を見据えて」というところで、若い世代、働く世代へのアプローチを行っていくために、教育部門や職域関係団体との連携が必要となる。また、糖尿病対策については、すでに当圏域では「南檜山糖尿病重症化予防プロジェクト」で管内の医療機関、町、関係団体が連携し、重症化予防に取り組んでいるところ。プロジェクトを運用する中で、引き続き糖尿病(重症化)リスク者への支援対策の強化を図っていければと考えている。

- スライド5～9

部会の目的としまして、「各町、医療機関、関係団体、保健所等の相互の連携体制強化(情報共有、検討、実施)により、若い世代(小・中学生～親世代)及び働く世代(～40代)に対する生活習慣改善(特に減塩)の重要性について普及啓発を進め、生活習慣病(糖尿病、高血圧)の発症予防・重症化予防を図る。」と定めた。連携体制強化を図りつつ、ターゲット層を若い世代に、疾病対策については「糖尿病」と「高血圧」に絞りこみ、さらに生活習慣改善の観点からは、「減塩」、これは、高血圧対策はもちろんのこと、糖尿病の治療効果の促進、また肥満対策を勘案したもの。

そして、この目的を果たすために、今回、「目標1」働く世代(～40代)へのアプローチ、「目標2」小中学生～親世代へのアプローチ、「目標3」糖尿病対策の強化と、重点目標を3つ掲げた。

[企画総務課 主事] (別紙2、2-2)

・目標1の補足説明～南檜山地域・職域連携推進連絡会について

「南檜山地域・職域連携推進連絡会」は、地域保健と職域保健が連携を図り、健康づくりのための情報共有や保健事業の共同実施などの取り組みを行い、南檜山圏域の生活習慣病予防対策を推進することを目的に平成18年に立ち上げた。これまでの開催状況として平成20年度までに2回と平成29年度に1回開催しており、昨年度は書面開催によりアンケート調査を行ったところ。

平成29年度に連絡会を開催した際は、主に特定健診・がん検診及び受動喫煙防止対策を議題に情報共有を行った。結果として、職域団体からの出席率が低く、連絡会の役割を十分に果たせなかったため、今後は、地域の実情に応じたより良い構成団体となるように、主に職域団体の見直しを行っていく。また、連絡会の必要性について十分に周知をした上で、職域団体からも積極的に出席をしてもらえるよう対策を行っていく。

また、先ほどの説明事項で説明のあった調査結果からも、職域保健においてのがん検診受診率の低さを改善したいとの声や、生活習慣改善を図る体制作りをしていきたいとの声があったため、今年度は地域と職域における健康づくり事業の実態把握や地域と職域が連携を図るうえで課題と感じていることなどを把握し、今後の連携体制構築の資料としていくため、アンケート調査や聞き取りの実施を考えている。

[企画総務課 主査(保健推進)]

・目標3の補足説明～南檜山糖尿病重症化予防プロジェクトについて

南檜山糖尿病重症化予防プロジェクトは、開始からおよそ7年目位に突入し、実際に100件以上の対象者さんがプロジェクトを活用し、医療機関及び地域の栄養士、保健師から指導を受けながら経過しているもの。

今回は詳細なデータについてお示ししていないが、主に上ノ国町の方が対象者として多く、江差町、厚沢部町、乙部町、奥尻町さんのケースが、なかなかこのシステムに乗っかっていない事が実数的な課題となっている。

しかし、このプロジェクトを活用していないから管内の糖尿病対策が出来ていない訳では決して無く、この事業のメリットが上手く伝わりきっていないことや、運営していく上で手間、また稼働が余計にかかっているというのが思い当たるため、今回の方針案で示されたように、少し簡易に運営していけるようなメンテナンスを行っていきたいと考えている。

また、今回の方針案では、若年層をターゲットに、とのことであったが、このプロジェクトの対象者100件の内、50代以下は15%以下位で、ほとんどが60歳以上の高齢者が対象者となっており、高齢者への保健指導が主になってきている。もちろん、重症化予防、透析導入というのを防がなければいけないため、高齢者へのアプローチというのも必要だが、次世代への健康づくりをしていくという意味では、若い世代へもアプローチをしなくてはならないため、医療機関や地域の関係者の方から、若い人たちを上手く繋げていくことについても、普及啓発をしていきながら、このシステムの運用についてご協力をいただきたいと考えている。

最後に、方針案では、減塩指導についても強化していくということだが、減塩指導がなかなか難しい場合は、必要に応じて、研修会などを考えていきたい。最終的には食習慣という文化を少し変えていくアプローチを考える必要性があるため、今の高齢者が糖尿病になっているということは、その食習慣で育った今の父親、母親世代そして孫世代の若い人達が、しょっぱい物を食べたりと、高カロリーを含めた糖尿病になりやすい食習慣を送っていると思われるため、その世代間の連鎖を止めるためには、医療機関や地域の力では足りない部分がある。職域の話や、教育の話も含め、地域全体で取り組んでいく必要性があるため、町民自身の意識を変えていくという意味でも、なんらかの形でアプローチしていかなければならない。糖尿病対策というところでは、先ほどのアンケートの中でも色々と期待されているところであるため、この事業の方向性を検討しながら、目標に据えたところに着手していくように、皆さんと一緒に取り組んでいきたいと考えている。

5 質疑、ご意見等

(1)「目標1」働く世代へのアプローチについて

[厚沢部町]

職員の健康診断を受けた後の結果を一同に管理して、産業医の先生に診ていただき、個別の相談に努めている。また、本人の希望があれば、データをチェックして頂いている他、保健師、栄養士の健康相談の希望をとって行っている。ストレスチェックや血液サラサラチェックなど、相談に行きやすい、興味を持ってもらえるような内容も含めて、皆さんに周知しており、比較的若い方にも保健師の指導を受けているのが見受けられる。実施して2~3年経つが、今後も継続して行っていこうと考えている。

[厚沢部町国民健康保険病院]

厚沢部町国民健康保険病院も連動して行っている。

(2)「目標2」教育部門へのアプローチについて

[檜山教育局教育支援課長] (資料3)

管内の子供達の様子について情報提供させていただく。1番に示しているのは、南檜山5町に係る児童生徒の現状について、国で行っている全国体力運動能力運動週間の調査で集計された、体重に関わる項目の結果を抜粋したもの。小学生は5年生、中学生は中学2年生が対象となっており、先ほど企画総務課専門員より説明のあった結果とは異なる。昨年度については、コロナの影響があって実施されなかったため、令和元年度の結果となる。本日は調査の一部のみを掲載している。

表の見方は、小学校5年生の男子で肥満傾向児は全国で11.1%のところ、北海道では15.9と4.8ポイント高い状況にいる。同様に、小学校5年生女子では、全国との差が2.4ポイント高いということ、中学校2年生男子は2.2ポイント高い、女子は、は0.7ポイント高い。南檜山の圏域についても、小学校男子以外では全て上回っている状況。

また、肥満傾向については、運動習慣や生活習慣とも関係があると思われるが、管内7町の子どもたちの体力については、小学校の男女、中学校の男子において、全国よりも高い数字で、檜山の子どもたちは体力がついているという結果が出ている。また、児童・生徒に行った質問調査によると、保健体育の授業が楽しいと回答した子どもが、小中学校の男女とも、全国を上回る結果であった。こうした背景には、先生方の日常の努力もあるが、各町の運動施設の充実、スポーツ振興事業、あるいはスポーツ少年団の活動などの影響も非常に大きいと考えている。

次に、生活習慣に関わって、児童生徒の体力の状況について、A、B、C、D、Eの5ランク（Aが得意）で評価がされる中、いわゆる運動が得意でないD、Eの子どもたちは、運動が得意なA、Bと比較すると、朝食を食べると回答した割合が非常に低いとの結果が出ている。さらに、このD、Eの生徒の中で、朝食を食べない、あるいは食べない日が多い生徒の生活を見ると、睡眠時間は6時間未満となっており、テレビ、スマホなど、画面を見る時間が5時間以上ということも調査の結果として出ている。これを踏まえると、資料の2に記載している小学校の指導要領、学校における食育の推進などについて、家庭は地域社会とも連携を図りながら、生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎が培われるよう配慮することが重要であると考えているところ。更に、学習指導要領の解説には、学校における食育の推進については、栄養摂取などの偏りに起因する肥満や生活習慣病等の健康課題についても、栄養バランスに係る指導が一層重視されなければならないということで、示されているというところ。教育局としては、局の職員が町の教育委員会のほか、各学校を訪問する機会等を通じながら、状況に応じて、指導助言をしていきたいと考えている。

[乙部町]

子育て世代の状況については、先ほど教育局からお伺いした情報とリンクしており、生活習慣が確立していない子どもの肥満が増えているということは、指導の中で感じているところ。町としては、乳幼児の頃から健診が入っているため、生活習慣の部分も含めて指導しているが、3歳児以降は手が離れてしまうため、保育園と、その後の学校との連携をお願いすることとなるが、学校に栄養教諭が入ったことで、町が学校に入っていく場面が少なくなってきたため、今後、栄養と保健の連携が必要になってくると思う。

(3)「目標3」糖尿病対策へのアプローチについて

[上ノ国町]

南檜山糖尿病重症化予防プロジェクトについては、上ノ国診療所、石崎診療所の先生から情報をいただき、また町でも特定健診などから、血糖値が高い人を拾い上げているが、それぞれ拾う面が違っていると感じており、また人口も多いことから、高齢者の対象者も多い傾向にある。逆に若い人は、違う病院にかかっているのだろうと思われる。

町が入って指導すると、改善する高齢者の方は結構おられ、お話すると、「透析にはなりたくない」という声が聞かれる。

また、透析に上がってくる方の情報をみると、もっと早い段階で情報をいただければ、と残念に思うことがある。先生方がお忙しいのも重々承知しており、また個人情報を出すことも時代的に難しいと思うが、地域と病院の連携の部分で、発信していただくと町も関わることができる。今後、より良い南檜山糖尿病重症化予防プロジェクトしていただきたいなと感じている。

[江差地域訪問看護ステーション]

糖尿病の患者さんは、去年、一昨年あたりから、重度化して腹膜透析に移行される方が増えてきている。在宅で腹膜透析をされ、また高齢で独居の方もおられ、1日2回、3回と訪問している状況。腹膜炎を起こして再入院をするという可能性もあるため、先ほどの上ノ国町さんのお話でもあったように、予防という段階で、あらゆる関わる方が、支援をしていくことができればという思いはいつも感じているところ。これからも皆さんと連携して行っていきたいと考えている。

[道立江差病院]

本日の会議は疾病予防対策ということで、疾病になる前という意味では、協力して取組を行っていきたいと思っている。

透析ベッドの件については、当院は17台運用しており、60人くらいで管理している状況で、当院には2名の循環器内科医がいる。今年は特別なのか分からないが、10名近くの患者が透析になる見込みだと聞いている。

医療機関の考えというところで、1台ベッドを増やそうと考えているが、当然、透析をしないと亡くなってしまうため、この地域で私たちが守らなければ、青森や札幌に行かないといけない状況になってしまう。ベッド数を増やして対応はしていくが、医療資源、主に人的資源が不足しているため、今後、南檜山メディカルネットワークで連携し、地域全体で対策を行ってきたい。

これ以上透析が増えると、透析だけをみる循環器内科になってしまい、他の疾病を診られなくなってしまう。医療機関として、最大限の努力はしていくが、そのような事にも繋がりがねないため、情報等折り入るようであれば、協力したいと考えている他、メディカルネットワークの中でも、循環器内科の先生からのお話など、地域の公開講座等を予定している。

疾病になる前の対策として、ぜひご協力をお願いしたい。

[公益社団法人北海道看護協会道南南支部] ※道立江差病院

今、透析の現状として説明があったが、補足として情報提供する。

毎年6月に、病院で透析状況データを経年的に調べているが、令和元年6月時点で、透析待機患者数は11名、令和2年度は18名、令和3年度は6月時点で22名と、この2年間で倍になっている。その間に透析の機械が2台増えているため、実質、令和元年53名の受入患者さんだったところ、今現在、63名まで受け入れている状況。その状況で、22名待機ということは、かなり加速的に重症化が進んでいる印象を受けている。

6 閉会

以上で疾病予防対策専門部会を終了する。

なお、第2回部会については、2月～3月を予定しており、日程調整させていただく。